

# チュニジア（2025年度）

- [国・地域別情報トップページへ](#)
- [各国・地域情勢](#)
- [在チュニジア日本国大使館](#)

1. 2024年度日本語教育機関調査結果
2. 日本語教育の実施状況
3. 教育制度と外国語教育
4. 学習環境
5. 教師
6. 教師会
7. 日本語教師派遣情報
8. シラバス・ガイドライン
9. 評価・試験
10. 日本語教育略史

## 1.2024年度日本語教育機関調査結果

初等教育			中等教育			高等教育			学校教育以外			全体の合計		
機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数
0	0	0	0	0	0	1	1	20	2	5	185	3	6	205

（注）2024年度日本語教育機関調査は、2024年9月～12月に国際交流基金（JF）が実施した調査です。また、調査対象となった機関の中から、回答のあった機関の結果を取りまとめたものです。そのため、当ページの文中の数値とは異なる場合があります。

[「海外日本語教育機関調査」のページへ](#)

## 2.日本語教育の実施状況

### 全体的状況

#### 沿革

- ・ 公立機関

1977年にブルギバ現代言語研究所（Institut Bourguiba des Langues Vivantes、現在はチュニス・エル・マナール大学（Université de Tunis el Manar）に所属する）にてJICAの派遣する海外協力隊（日本語教師）によって開始されたが、1993年に協力隊派遣が一旦終了したため、日本語講座も閉講した。その後、1999年に同研究所でアラビア語を学んでいた日本人留学生が、社会人及び学生を対象とした日本語教育を開講した。2022年には海外協力隊の派遣も再開され、以降、2025年6月まで継続的に日本人の教師が日本語を教えていたが、同月に常勤の日本人講師の離職及びJICA協力隊員の帰国に伴い、9月開始の新学期の日本語クラスの開講は延期され、11月にチュニジア人の非常勤講師が着任したことによって同月3日に再開した。11月6日時点、1名のチュニジア人非常勤職員が同研究所で日本語を教えている。

2000 年頃にカルタゴ大学ボルジュ・セドリア先端科学技術学院 (Ecole Nationale des Sciences et Technologies Avancées de Borj Cédria (ENSTAB)) にて日本語クラスが開講したが、2025 年 9 月開始の新学年度では、教師不在により日本語クラスは開講されていない。2002 年にはカルタゴ大学外国語研究所 (Institut Supérieur des Langues de Tunis, Université de Carthage) においても日本語教育が開始されたが、資金不足により 2008 年を最後に中断した。そのほか、エル・マナール大学チュニス国立技術学校 (Ecole Nationale d'Ingénieur de Tunis (ENIT)) やエル・マナール大学医学部でも日本語教育が実施されていた (単位が与えられるものではなく、クラブ活動に近い形)。

#### ・私立機関

2017 年 10 月にチュニス市内にある私立のビジネス・スクール (First Leaders Consulting) で日本語教師の資格を有する日本人講師 (既に離職) による日本語教育が開講され、現在チュニジア人専任講師と日本人教師 (3 名) うち 2 名は有給インターシップ) によって日本語が教えられている。

### 背景

チュニジアは伝統的に親日的な国であり、外務省が毎年度実施する令和 6 年度対日世論調査によると、対日関心事項として「建築 (85%)」、「生活様式・考え方 (82%)」、「相撲・武道 (73%)」、「ポップカルチャー (64%)」などが上位を占めており、建築や日本独自の習慣、伝統スポーツ、マンガ、アニメをきっかけとして日本文化に関心を持ち、日本語学習を希望する者が多い。

### 特徴

訪日経験や語学学校での学習を通じて日本語を学び、比較的高い日本語能力を有する者もいるが、指導可能な人材が限られており、中級者以上が継続して学習し、日本語能力を高める環境が整っていないことが課題である。一方で、インターネットを活用して独学で日本語を学ぶ者もあり、中には日本語能力試験 (JLPT) N1 取得者もいる。

### 最新動向

チュニジアで日本語教育を行っている公的教育機関は、ブルギバ現代言語研究所 (1977 年開講) のみ、このほか、チュニス市内にある私立のビジネス・スクール (First Leaders Consulting) で 2017 年以降、日本語教育が開講されている。

### 教育段階別の状況

#### 初等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

#### 中等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

#### 高等教育

現在、閉講中（過去に、カルタゴ大学ボルジュ・セドリア先端科学技術学院（Ecole Nationale des Sciences et Technologies Avancées de Borj Cédria（ENSTAB））にて、選択科目として日本語クラスが開講しており、チュニジア人教師によって日本語教育が実施されていた）。

### 学校教育以外

ブルギバ現代言語研究所では、チュニジア人の社会人や学生を対象にした日本語講座が開設されている（学位の付与はない）。4年終了時に行われる試験の合格者には、ブルギバ現代言語研究所の卒業証明書が授与される。

2017年10月からチュニス市内にある私立のビジネス・スクール（First Leaders Consulting）で日本語教師の資格を有する日本人講師による日本語教育が開講された。

## 3.教育制度と外国語教育

### 教育制度

#### 教育制度

6歳～14歳までの9年制。

義務教育は初等教育（6年間）と中等教育（3年間）の9年間。高等教育は（高等学校）4年間。そのほかに職業適性証 Certificat d'Aptitude Professionnelle(CAP)の取得につながる2年間の職業訓練校と技術者になるための2年間の高等技術専門学校がある。また、バカロレア取得後、大学短期技術教育免状（BTS）課程（2年間）も設置されている。

#### 教育行政

初等教育および中等教育は教育省が管轄。

大学、高等技術大学は高等教育・学術研究省が管轄。

職業訓練校と高等技術専門学校は職業訓練・雇用省が管轄。

### 言語事情

公用語はアラビア語。

都市部ではフランス語も一般的に広く使用されている。

### 外国語教育

通常基礎教育3年生（8歳程度）からフランス語（第一外国語）教育が始まる。

英語（第二外国語）は以前は基礎教育4年生（9歳頃）から教育が開始され、5年生（10歳頃）からより深く学べるようになってきている。

### 外国語の中での日本語の人気

あらゆる世代で日本語を学ぶ者がいる。それぞれ関心分野は異なるが、若年層はマンガやアニメ、音楽（アニソン）を通して日本語を知り、中高年層はテレビ放映されていた日本のアニメを通して親しみを持つ。こうした

人々の中には日本語学習に関心を持つ者もいる。

### 大学入試での日本語の扱い

大学入試で日本語は扱われておらず、英語、フランス語、スペイン語、イタリア語、ドイツ語、ロシア語、中国語が外国語試験の受験語として選択できる。

## 4.学習環境

### 教材

#### 初等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

#### 中等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

#### 高等教育

『みんなの日本語』スリーエーネットワーク（スリーエーネットワーク）を使用していた。（ENSTAB）

#### 学校教育以外

- ・『みんなの日本語』スリーエーネットワーク（スリーエーネットワーク）  
（ブルギバ現代言語研究所（2年生から4年生）、First Leaders Consulting）
- ・『まるごと 日本のことばと文化』（三修社）（ブルギバ現代言語研究所（1年生））
- ・『いろいろ 生活の日本語』（国際交流基金）（ブルギバ現代言語研究所）

### IT・視聴覚機材

日本語教育に IT・視聴覚機材は使用していない。

## 5.教師

### 資格要件

#### 初等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

#### 中等教育

チュニジアにおける中等教育教員資格証明書（CAPES）は、公立中等教育機関（中学校および高校）で教鞭をとるための国家資格である。本試験の受験資格として、学士号及び修士号が必須であり、語学試験の選択科目として、アラビア語、フランス語、英語が指定されている。なお、一部の中学及び高校では生徒のニーズによって、

第2外国語としてスペイン語やトルコ語の講座が開講される年があり、その年のみ、語学試験の選択科目に要望のある言語が追加される（これまで CAPES に日本語が追加されたことはない）。

## 高等教育

チュニジアにおける高等教育機関は、高等教育・科学研究省が管轄しており、高等教育機関で教授するには大学教授資格（アグレガシオン）が必須となっている。加えて、Habilitation Universitaire（研究指導能力を証明する学位）の取得及び修士号の取得、卓越した研究・教育実績、国内外での評価、多数の博士課程学生の指導経験が必要条件となっている。ただし、有資格者はいないため、ニーズの少ない日本語教育については、日本語運用能力があり且つ日本について一定の知識を有する准教授や講師が臨時的に指導している。

## 日本語教師養成機関（プログラム）

日本語教師養成を行っている機関、プログラムは確認されていない。

## 日本語のネイティブ教師（日本人教師）の雇用状況とその役割

現在2名の日本人講師が以下の教育機関で教授している。

– First Leaders Consulting（2名）

有給インターンシップとして3ヶ月から1年程度の期間付で日本語を教えている。

## 教師研修

現職の日本語教師対象の研修は確認されていない。

## 6.教師会

### 日本語教育関係のネットワークの状況

日本語教育関係のネットワークは確認されていない。

## 7.日本語教師派遣情報

### 国際交流基金からの派遣

### 国際協力機構（JICA）からの派遣

JF、JICAからの派遣は行われていない。

### その他からの派遣

（情報なし）

## 8. シラバス・ガイドライン

統一シラバス、ガイドライン、カリキュラムはない。チュニジアで日本語を教えている教師はそれぞれのやり方で教授している。

## 9. 評価・試験

2020年より日本語能力試験（JLPT）が開始されている。第2回目となった2021年の試験ではチュニジアで初めてのN1合格者が出ている。第4回目の試験ではN1に初めて複数（2名）の合格者を出した。

## 10. 日本語教育略史

1977年	ブルギバ現代言語研究所（Institut Bourguiba des Langues Vivantes, Université de Tunis el Manar）で海外協力隊の日本語教師によって日本語教育が開始（一時期、講座を閉講した時期あり）。
2000年頃	カルタゴ大学ボルジュ・セドリア先端科学技術学院（ENSTAB）で日本語教育が開講（2025年秋開始年度は閉講）
2002年頃	カルタゴ大学外国語研究所（Institut Supérieur des Langues de Tunis, Université de Carthage）において日本語教育が開講（2008年に閉講）
2017年	チュニス市内にある私立のビジネス・スクール（First Leaders Consulting）にて日本語教育が開講
2020年	日本語能力試験（JLPT）実施開始

## 情報更新についてのお願い

この国の日本語教育に関する情報がありましたらお知らせくださるようお願いいたします。  
なお、内容の確認のため、こちらからご連絡する場合があります。

**Eメール：kuniketsu@jpf.go.jp**

（メールを送る際は、全角@マークを半角@マークに変更してください）